北海道の体育
体研連ミニ広報
No. 2
令和５年 11 月 16 日（木）

全道代表者研修会、全道大会十勝大会　終了

令和５年 10 月 27 日（木）に全道代表者研修会が、28 日（金）に第 59 回北海道学校体育研究大会十勝大会が開催されました。今年度は感染症対策をしながらも間近で学習をみることができた全道大会でした。両日ともに全道各地から多数の参加があり、充実した素晴らしい２日間となりました。

全道代表者研修会

○10 月 27 日（木）15：30～

十勝教育研修センターにて

十勝支部をはじめとする 12 支部より 19 名が出席され、役員 14 名、事務局員 14 名を合わせて 47 名の参加となりました。秀島　起也委員長の挨拶で会が始まり、続いて全道大会十勝大会下坂　吉彦実行委員長のお話がありました。

体研連　秀島　起也　委員長

体研連　嶋本 剛　事務局長

各支部、事務局の自己紹介の後は、嶋本　剛事務局長より４月からこれまでの活動経過報告がなされ、更には令和５年度全国学校体育研究優良校・功労者として表彰される先生方の紹介がありました。今年度は、優良校６校、学校体育功労者４名と優秀教員１名が全国大会で表彰されます。誠におめでとうございます。

続いて、研究部より、翌日に控えた全道大会十勝大会の研究の概要や授業づくりについて、全道研究担当者研修会や会費の納入についての連絡がありました。

支部の活動状況報告では、各支部の研究主題や研究に対する基本的な考え方、令和５年度前期の取組や今後の研究授業、研修会の日程等の報告がなされました。短い時間ではありましたが、各先生方の自己紹介とそれぞれの支部での成果や課題、また、今後を担う若い世代の人材の育成について、密度の濃い報告となりました。

来年度の全道大会は、札幌での開催となり、全国大会のプレ大会でもあります。全国大会へ見据えてのお話の後、井上　暁博副委員長の挨拶で閉会となりました。

全道代表者研修会各支部報告の様子

授業公開

十勝支部は、『自ら創り共に学び合う体育学習～≪気づく≫≪かかわる≫≪できる≫子どもの育成～』を研究主題として、以下の２つの視点を設定し、研究を進めてきました。

視点１：学び合う児童生徒（気づく・かかわる）※見方・考え方を豊かにする

（１） 運動観察により、課題を明確化（課題設定の工夫）

（２） 集団で「動いて考える」「考えて動く」ことから、動きのコツを共有

（３） 課題解決の場を選ぶ、または解決の場を創る

視点２：学習過程を教材化（できる）※課題解決的な学習の確実な取組

（１） 追求意欲を生み出す学習課題の設定（他者との関わり合い、運動を探求する）

（２） 魅力ある教材・教具の工夫、開発（運動の特性を味わう）

（３） 活動の充実につながる学習過程の工夫・改善（評価基準を明確にし、伸びを実感）

≪芽室町会場≫

小学校　第4学年「フリーで決めろ！フットビー」

授業者：芽室町立芽室西小学校　松浦　諒　教諭

バレーボールの指導者としてもご活躍中の松浦教諭が、フットビーの授業を行いました。体育の学習が好きな児童がとても多い反面、足を使ってボール操作をすることには苦手意識をもつ４年２組。基本的なボール操作の技能を丁寧に身に付けさせることにより、意欲的にフットビーに参加する姿、児童の「シュートを打って得点したい」という願いをかなえる姿を目指す学習でした。
そのために、①弾みにくいフットビーパックを使用すること②どこからでもシュートを狙える 360 度パノラマゴールにすることの２点の教材化の工夫を講じていました。

導入では、連続パスからのシュートが決まった場面と、うまくいかなかった場面の映像を提示し、「ダイレクトパスからのシュートを決めたい。」という思いを生んでいました。フリーになること、ダイレクトでシュートをすることを目指した試しのゲームを通して、攻撃側のよさがある一方で、守備側の難しさにも気付く姿が見られました。メインゲームでは、試しのゲームで意識したダイレクトパスからのシュートをしようと何度も挑戦する姿が見られました。振り返りでは、クロームブックを使って、ダイレクトパスに焦点を絞り、自分の動きや、そのよさについてまとめていました。

≪清水町会場≫

小学校　第4学年「エースをねらえ！ハンドテニス」

授業者：清水町立清水小学校　細田　泰稔　教諭

バスケットボール歴 33 年、コーチやレフェリーとしてもご活躍中の細田教諭が、ハンドテニスの授業を行いました。「作戦を生かして、狙った所へボールを打とう」という単元を貫く目標を設定するとともに、手にはめるラケット、打ちやすいボールを使用することで誰もが運動の特性を味わうことができるような工夫がされていました。

本時では、試合の動画を基に失点箇所を示し、守備者の視点に焦点化しました。端末を使い、失点箇所の傾向をつかむことで、チームの守備位置を決め、スムーズに返球できるように試しのゲームを積み重ねる姿が見られました。試しのゲームの動きを受けて、さらに守備位置を再考することで、守備の動きを高めていました。振り返りでは、自分の守備や攻撃の工夫に加え、チームで考えた作戦について理由を明確にして伝え合う姿が見られました。

≪足寄町会場≫

中学校　第1学年「アタックオンリーワン　ネット型　バレーボール」

授業者：足寄町立足寄中学校　　矢野　力也　教諭

スピードスケートが得意で現在はコーチ・レフリーとしてご活躍中の矢野教諭が、バレーボールの授業を行いました。

視点２の魅力ある教材として子ども達の「アタックしたい！」を学習の中心に据えた単元を構成し、本時では、「アタックを決めるための練習を考えよう」という課題を設定し子どもたちは課題解決の場を考えていました。

学習の導入では達人カードを用いてサーブやトスといった技能を高める活動を展開していました。達人カードにより、見る視点が明確なので子ども達同士が活発にアドバイスをしている姿が印象的でした。

課題解決の場面では各チームがゴールの姿を設定し、そこに向かってどんな練習をすればいいかを思考ツールを活用して話し合い、練習をしていました。練習方法が決まると矢野先生からチェックを受け、各チームが主体的にアタックにつなげる動きの練習をしていました。声を掛け合い、動きを高めていました。最後の確認ゲームでは、試合球として柔らかいボールを使用して、よりダイナミックなゲーム展開を図っていました。練習を生かし、子ども達同士で声を掛け合い、アタックを決め、喜び合う姿が見られました。最後の振り返りではできたことや次時への課題をクロームブックで共有していました。

≪上士幌町会場≫

中学校　第2学年「マット運動」

授業者：上士幌町立上士幌中学校　　小澤　佑貴　教諭

高校時代に全道大会で優勝しインターハイ全国大会に出場したこともあるという、サッカー歴 20 年の小澤先生がマット運動の授業を行いました。

連続技のつなぎに着目した単元計画で、各時間に技能を高めるサーキット運動の時間がありました。前方倒立回転跳びや倒立前転ができる子も多く、どの子も技能が高い印象でした。

授業では、「どのように技の順番を入れ替えると演技がスムーズになるか考えよう。」という課題の解決に向けて、開始姿勢と終末姿勢に着目させてアドバイスをし合う学習展開でした。気付いたことをスマイルネクストの思考ツールに打ち込み、全体で共有し、アドバイスタイムを繰り返しながら演技を修正していました。共有されたアドバイスは他のグループに関わっていた小澤先生もすぐに確認することができ、そのグループに関わっていた姿が見られました。即時的な指導が効果的でした。

最後に演技を撮影し、その動画を見ながらもアドバイスを繰り返し、何度も連続技の構成を考えていました。タブレットを活用し、お互いに考えを全体で共有することでより効果的に対話をすることをねらった授業でした。

全体会・分科会

公開授業後、清水町文化センター・上士幌町生涯学習センターにて全体会が行われました。今年度は２会場に分かれて、初めてオンラインでの全体会二元中継で行われました。秀島　起也委員長の挨拶で会が始まり、下坂　吉彦実行委員長のお話があり、続いて御来賓紹介がありました。その後、河本　岳哉研究部（小）部長から基調報告、十勝保健体育サークル　青木　真理研究部長から十勝支部の研究についてのお話がありました。

全体会後に行われた研究協議では、両会場で小学校の授業、中学校の授業に分かれての分科会が行われました。両分科会とも、ワールドカフェ方式でそれぞれ公開された２つの授業について、活発な意見交流がなされました。十勝支部の研究主題である「自ら創り共に学び合う体育学習　～≪気づく≫≪かかわる≫≪できる≫子どもの育成～」で設定された視点に沿って、多くの意見が出されていました。清水町文化センター分科会では、北海道教育大学旭川校教授　高瀬　淳也氏より、上士幌町学習センター分科会では、北海道教育大学札幌校教授　中島　寿宏氏よりご助言をいただき、それぞれの分科会が閉会となりました。

全体会

開会のあいさつ

上士幌会場オンラインの様子

基調報告

清水町会場　分科会

上士幌町会場　分科会

※討議内容等は、機関紙 123 号にも掲載されます。

（文責：広報部　髙橋・早川）